

防災体制の よりいっそうの充実を

9月26日、打出中学校でおこなわれた「大津市総合防災訓練」に、塚本、杉浦両市議と一緒に参加しました。

河川が増水傾向のなか、マグニチュード7.8の地震が起こり、火災、ライフラインが停止、多数の死傷者発生などを想定した訓練で、民間団体も参加しておこなわれました。

当日は防災に対する様々な調査資料や展示物も置かれ、災害に対応する知識の必要性を改めて感じました。

「いざというときは、地域住民の力が一番頼りだ」と、中越沖地震を体験された新潟市の行政視察の時にもお聞きしています。こうした取り組みが地域に浸透するよう消防力の強化を図り、自主防災組織等へのさらなる支援が必要だと感じました。



↑ 防災訓練の様子。



大津市総合防災訓練に参加 石黒かづ子市議

ごみ減量の ための 有料化をいながら…

この「刈り草剪定枝再利用整備事業」が、8月に行われた大津市の事業仕分けで、「不要」と判定されました。評価者からは、「2千万円の破砕機を導入し、クリーンセンターで焼却する方が効率がいい」という理由等があげられています。

燃やしたほうが安いから…

現在、公共の道路や公園の維持管理分の刈り草・剪定枝は、焼却せずに堆肥化されています。作られた堆肥は市民に無料配布して活用されています。

現在、大津市では、「負担の公平化」や「ごみの減量、リサイクルなどに対する市民の意識向上」などの理由から、大型ごみに続き、家庭系ごみの有料化が検討されています。ところが…

リサイクルを
すすめる

刈り草剪定枝再利用 整備事業は「不要」?

廃止でなく、規模の拡大でリサイクル推進を

「ごみ問題の一番の課題は、何でも燃やす「全量焼却」主義から、市民と行政の協働で資源化や分別収集の拡大をすすめ、CO2の削減など地球環境を守りながら、ごみ減量に取り組んでいくことです。とくに大津市は他都市と比べてもリサイクルなど、ごみ減量の取り組みは不十分です。

「刈り草剪定枝再利用整備事業」は、廃止ではなく処理の対象を広げて、ごみ減量に向け再資源化を拡充すべきです。



大津市の競輪事業廃止



目片市長は8月市議会閉会日の9月17日、大津市の競輪事業を今年度末で廃止することを明らかにしました。

6年前に赤字を計上して以来、経営改善の努力にもかかわらず毎年赤字が続ぎ、今年度末の累積赤字が約26億円にのぼる見込みになったためです。しかし、税金で多額の赤字補填をしなければならず、この決断は遅すぎたと言わなければなりません。

共産党市議員団は当時から、赤字を出しながら競輪事業を続ける理由はないとして、毎年廃止を含めた検討を求めてきました。また議会でも特別委員会を設置し、廃止の決断を促してきました。

今後は終息のための資金手当てが必要になりますが、従事員への処遇を適切におこなうとともに、市民へのしわ寄せがないよう、議会としての検討・提案をおこなっていくためにがんばります。

2010年決算特別委員会が行われます

一般会計決算特別委員会 10月4日(月)～7日(木)
特別・企業会計決算特別委員会 10月8日(金)、12日(火)、13日(水)
大津市役所新館・大会議室にて
午前10時～

どなたでも傍聴できます。